



学生が学んでいる様子



バッグの作製過程



染料となる菊炭



菊炭の染料を使用した
トートバッグ

詳しくは



黒川の魅力を発信するために

「日本一の里山」といわれる黒川地区の魅力を届けるため、市と大阪成蹊短期大学の官学連携によって誕生した「菊炭染めトートバッグ」。伝統に新たな命を吹き込み、優しく染め上げられて形となったバッグを紹介します。

問い合わせ 官学連携について 企画政策課 ☎ 072(740)1120 / ふるさと納税について 産業振興課 ☎ 072(740)1121

地域の課題を学生が未来へつなぐ

優しく深みのある独特のグレー。この美しい色合いは、黒川地区の伝統産業「一庫炭(菊炭)」の生産過程で出る、本来なら使われない断片を活用した染料から生まれました。

背景にあるのは、「黒川地区ブランド化事業」。市では「日本一の里山」といわれる黒川の魅力を届けたいものの、発信力や若い世代へのアプローチに課題を抱えていました。そこで、実践的な学びを展開したい大阪成蹊短期大学と包括連携協定を締結。大学の専門知識と学生の豊かな発想力によって、日常で活躍するトートバッグが誕生しました。

官学連携の絆から生まれたバッグは、今年の3月からふるさと納税の返礼品となり、全国へ黒川の魅力を発信しています。このふるさと納税を通じて寄せられた応援の気持ちは、里山を守る活動や快適なまちづくりに大切に活用されます。地域の課題から生まれた一つのバッグが、全国にファンを増やし、私たちの暮らしや未来を豊かにしていく。そんな新しい挑戦が、今、着実に歩みを進めています。

INTERVIEW

自分の研究が地元で形に

地域の伝統産業である一庫炭の新しい可能性に着目し、「燃やす」から「身にまとう」ものへ変えられないかと私自身の専門的な研究を始めました。幾度もの試行錯誤を重ね、納得のいく染料が完成。その後は大学の授業の一環として、学生たちと一緒にものづくりにつなげました。毎年入れ替わる学生たちを黒川へ連れていき、地域のストーリーを肌で感じてもらいながら、このバッグを形にしました。それが市の提案でふるさと納税の返礼品となり、地域に貢献できる形に。今暮らしているこのまちに自分の研究が役に立てたことが、何よりも本当にうれしいですね。



伊東 義輝 さん
 市在住で、大阪成蹊短期大学生活デザイン学科コース主任教授を務める。「菊炭染めトートバッグ」の生産者



nead_regional_creation

CHECK & QUIZ 次の空欄(○の中)を埋めてください。

1: 学校も世代も越えて○ながる 2: 乾〇池などにも絶縁処理をお願いします
 クイズ正解者の中から図書カード(1,000円分)を5人に差し上げます(正解者多数の場合は抽選。当選者のみに送付します)。応募方法: 市ホームページ(右の2次元コードからアクセス可)から必要事項を送信するか、はがきにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、興味のある記事と感想を書き、7月10日(金)(消印有効)までに〒666-8501・広報聴課「クイズ」係へ。
 ※6月号の正解は(安)(口)で、178件の応募がありました。



5月末現在の人口 (〇内は前月比)

男	71,391人	(-39)
女	80,476人	(+18)
計	151,867人	(-21)
世帯数	72,655世帯	(+87)